②　減損の認識に至った経緯
　上記資産については、車庫としてＪＡＸＡ設立に際し承継しましたが、承継時に比べて平成22年度期中における利用率が著しく低下しており、利用率の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
③　算定方法等の概要
　減損額は、正味売却価額により算定しており、正味売却価額は、不動産鑑定業者が作成したデフレータに基づいて算定しておりますが、算定額が帳簿価額を上回っていたため、減損額は生じませんでした。

⑷　勝浦宇宙通信所の建物の一部
①　固定資産の概要
用途　衛星の運用管制、倉庫
種類　建物
場所　千葉県勝浦市芳賀花立山１―14
減損前の帳簿価格（平成22年度期首）　5,334,111円
②　減損の認識に至った経緯
　上記資産のうち､衛星の運用管制としてＪＡＸＡ設立に際し承継した１建屋については、倉庫として使用することとしたため、承継時に比べて平成22年度期中における使用可能性が著しく低下しており、使用可能性の回復は見込まれないことから､減損を認識しました。
　上記資産のうち、倉庫としてＪＡＸＡ設立に際し承継した１建屋については、承継時に比べて平成22年度期中における利用率が著しく低下しており、利用率の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
③　算定方法等の概要
　減損額は、正味売却価額により算定しており、正味売却価額は、不動産鑑定業者が作成したデフレータに基づいて算定しておりますが、算定額が帳簿価額を上回っていたため、減損額は生じませんでした。

⑸　内之浦宇宙空間観測所の建物の一部
①　固定資産の概要
用途　衛星の運用管制ほか
種類　建物
場所　鹿児島県肝属郡肝付町南方1791―13
減損前の帳簿価格（平成22年度期首）　52,274,022円
②　減損の認識に至った経緯
　上記資産については、衛星の運用管制等として７建屋をＪＡＸＡ設立に際し承継しましたが、承継時に比べて平成22年度期中における利用率が著しく低下しており、利用率の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
損益計算書に計上した減損額：０円
損益計算書に計上しない減損額：169,857円（損益外減損損失累計額で計上）
④　算定方法等の概要
　減損額は、正味売却価額により算定しており、正味売却価額は、不動産鑑定業者が作成したデフレータに基づいて算定しております。

⑹　鹿児島宇宙センターの建物の一部
①　固定資産の概要
用途　ロケットエンジン燃焼試験設備、データ中継設備及びロケット打上げの射場設備ほか
種類　建物
場所　鹿児島県熊毛郡南種子町大字茎永字麻津
減損前の帳簿価格（平成22年度期首）　151,584,501円
②　減損の認識に至った経緯
　上記資産のうち、ロケットエンジン燃焼試験設備およびデータ中継設備等としてＪＡＸＡ設立に際し承継した７建屋については、承継時に比べて平成22年度期中における利用率が著しく低下しており、利用率の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
　上記資産のうち、ロケット打上げの射場設備としてＪＡＸＡ設立に際し承継した８建屋については、ＧＸロケットの開発中止により使用可能性が著しく低下しており、使用可能性の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
損益計算書に計上した減損額：０円
損益計算書に計上しない減損額：2,426,987円（損益外減損損失累計額で計上）
④　算定方法等の概要
　減損額は、正味売却価額により算定しており、正味売却価額は、不動産鑑定業者が作成したデフレータに基づいて算定しております。

⑺　増田宇宙通信所の建物の一部
①　固定資産の概要
用途　衛星の運用管制
種類　建物
場所　鹿児島県熊毛郡中種子町増田1887―１
減損前の帳簿価格（平成22年度期首）　3,643,647円
②　減損の認識に至った経緯
　上記資産については、衛星の運用管制としてＪＡＸＡ設立に際し承継しましたが、承継時に比べて平成22年度期中における利用率が著しく低下しており、利用率の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳
損益計算書に計上した減損額：０円
損益計算書に計上しない減損額：120,241円（損益外減損損失累計額で計上）
④　算定方法等の概要
　減損額は、正味売却価額により算定しており、正味売却価額は、不動産鑑定業者が作成したデフレータに基づいて算定しております。

⑻　小笠原宿舎
①　固定資産の概要
用途　事業用宿舎
種類　建物
場所　東京都小笠原村父島西町24番14
減損前の帳簿価格（平成22年度期首）　6,193,433円
②　減損の認識に至った経緯
　上記資産については、事業用宿舎としてＪＡＸＡ設立に際し承継しましたが、承継時に比べて平成22年度期中における利用率が著しく低下しており、利用率の回復は見込まれないことから、減損を認識しました。
③　算定方法等の概要
　減損額は、正味売却価額により算定しており、正味売却価額は、不動産鑑定業者が作成したデフレータに基づいて算定しておりますが、算定額が帳簿価額を上回っていたため、減損額は生じませんでした。